

議長定例記者会見 会見録

日時：平成27年1月9日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

○新年を迎えての挨拶

2 質疑項目

○新年賀詞交換会での思いについて

○「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

○特別職報酬等審議会の答申について

○園遊会への出席について

○地方創生について

○全国農業協同組合中央会について

○県議会議員選挙について

1 冒頭の発言事項

○新年を迎えての挨拶

（議長）新年、明けましておめでとうございます。昨年、皆様方には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願いを申し上げます。

さて、私の方から、新年を迎えまして、少しご挨拶を申し上げるわけですが、私も生まれて初めての大晦日から新年でございました。言うまでもなく、元旦は皇居におきましての新年祝賀の儀に、県民の皆さんを代表させていただきまして出席させていただきました。非常に厳粛で、天皇皇后両陛下並びに皇族の方々が勢揃いで、ご挨拶を頂戴いたしました。非常に厳粛な儀式でございました。テレビでも放映されたようでございますが、本当に身の引き締まる思いでいっぱいでした。とにかく、天皇陛下はお元気でございましたし、27年は国の繁栄と国民の幸せを願っておるといようなお言葉をいただきまして、本当に感銘を受けた次第でございます。全国の知事、全国の県議会議長並びに各事務次官クラスがひとつの会場でございました。大体200人位の人数の儀式でございました。私も初めてで感銘を受けた次第でございます。

それから、5日に安倍総理の伊勢神宮の参拝がございました。各大臣が10数名だったと思うんですが、ご一緒ございまして、三重県の知事と私が参列をさせていただきまして、これも非常に厳かな儀式でございまして、三重県に

とりましても、大変に素晴らしい年中行事のひとつであると思います。まさしく身の引き締まるという言葉が適当であるかと思いますが、そういう思いでいっぱいでした。今年1年が安寧で、いっそう三重県政が元気を出して活発に動いてくれることを、私からも実はお祈りをしたところでございます。

以上が新年にあたりましてのご報告でございます。

さて、国におきましては、昨年12月24日に第3次安倍内閣が発足し、新政権による国政運営が始まりました。12月27日には緊急経済対策がとりまとめられ、本日、関連の補正予算が閣議決定される予定でございますが、まずは景気回復の実感が地方にも広く行き渡るよう、経済再生に向けた取組をより一層力強く進めていただきたいと思います。また、国においては、今月14日を目途に、平成27年度予算の編成が進められております。衆議院の解散により、例年に比べて作業が大幅に遅れているわけではありますが、地方の予算編成作業に影響を及ぼすことがないように、予算の早期成立に全力を挙げていただくとともに、消費税増税の延期はあるものの、可能なかぎり、子育て支援、医療、介護など社会保障の充実に取り組んでいただければと考えております。

12月27日には、日本の人口の将来展望を示し、人口減少克服や地方創生の指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や、それを踏まえた今後5か年の目標や施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が国において策定されました。これを受けて、今後、本県におきましても「地方人口ビジョン」や「県版総合戦略」を策定することとなりますが、三重県が将来にわたって豊かで活力ある地域であり続けられるよう、人口の自然減対策としての少子化対策や社会減対策に、県当局とともに県議会としても、しっかり取り組んでいかなければならないと考えております。

最後に、今年は統一地方選挙の年であり、4月には私どもの選挙が実施される予定です。現時点で議員任期も残り3ヶ月余りとなりましたが、引き続き県民の負託に全力でこたえるべく、議会としての責務をしっかりと果たしてまいりたいと考えておりますので、皆様方のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上で、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。

なお、今年最初の記者会見でもありますので、副議長からもご挨拶をお願いしたいと思います。

(副議長) あらためて、新年、明けましておめでとうございます。また、今年も引き続きよろしくお願いしたいと思います。

私の方は議長ほど忙しくなく、ずっとぼーっとしているのが年末年始かなと思って過ごしておりました。だけど、5日に安倍総理大臣がみえたときに外宮内宮と参っていったら、花粉にやられてぐすぐすやっております。そんな中で、

今年というのは我々選挙の年でもあります。また個人的には、ちょうど合併から10年ということで、この10年、三重県も69市町村から29市町になって、どれだけ変わったのか、またそれぞれの合併した町、合併されなかった町、そんなところを一度検証することが地方創生につながるのかなというふうにも思います。11年間首長をやっていたときに一生懸命に人口減少なんかも考えてやってきたんですけど、なかなか一番難しいところがそこであるかなと思っていました。今、去年あたりから地方創生と言われるけれども、具体的には地方が考えよってというようなことで、国の方からそれなりの指示もない、こんなことで果たして地方創生ができるんかっていうのを正月中に考えておりました。やはり、今年が一番大事な地方の出発の原点かなというふうにも思います。選挙含めて、また県会議員として新しい選挙の年でございますので、それも含めてこれから心新たに三重県政のために知恵を絞って頑張っていきたいなど、そんなふうにも思っておりますので、大体、議長の方からいろんなことはお話ししていただきましたので、私の方からは、新しい年に向かって、三重県政が、また初心に戻って三重県民の幸せのためにどれだけやれるかというのが出発の年であると考えております。よろしく今年もお願いしたいと思います。

2 質疑応答

○新年賀詞交換会での思いについて

(質問) 新年にあたって、各団体・組織の賀詞交歓会だとか、旗開きだとかというのにも議長も参加されてるかと思うんですけども、そこで絶対に県議選の話が必ず出てくるわけですが、各団体・組織からの期待の声というのをこれからどういうふうに考えていこうと思われませんか。

(議長) 私も議長という立場で各団体のお招きを頂戴し、賀詞交歓会にはできるだけお時間の許す限り出席をさせていただいてまいりました。そんな中で私もその度に申し上げてきたんですが、ちょうど戦後70年になるわけございまして、そのことをずっと振り返ってみますと、今、大変一番大事な時代の変革期にあるように思えて、自分自身もそのように認識いたしておりますし、そういう意味で今年は節目の年で、これからの次の世代にどう引き継いでいくか、将来世代にどう引き継いでいくかと考えたときに、今年はその方向付けをするというような意味で、大変私は重要な1年だと思っておりますし、その旨をいろいろな挨拶の中で申し上げてまいりました。そして今年1年がそういう意味で、みんなにとって緊張感を持って臨んでいったらいかがでしょうかということを申し上げてまいりました。いろんなご挨拶を聞いておりますと、そういう意味のことを言われる方も多くございました。したがって、私は今年1年は大事な1年だというふうと考えておるわけでございますので、我々県議会と

いたしましても、そういうことをしっかりと考えながら取り組んでいくことが大事かなというふうに思わせていただきました。

○「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

（質問）先ほどご挨拶の中であった総合戦略の対策に県議会としても取り組んでいかなければいけないというお話がありましたが、具体的にはどのようなものという、今お考えがあれば教えてください。

（議長）総合戦略はですね、今まだ我々議会としても確かなものが出ておりませんが、当局としても、今ご挨拶で申し上げましたように、いろんな意味でそういうことを踏まえながらの総合戦略を検討中と言いますか、試案をまとめているところでございますし、そういうものがまとまってきた段階で、私どもも考えていかねばならないというふうに思っております。そのひとつが今の少子化の問題であろうかとも思いますし、鈴木知事もこの問題については最重要課題として取り組んでいるところでもございます。私も実は少子化の問題につきましても先送りをできない、言ってみれば至上命題だと、こういうふうに思わせていただいておりますので、こういった点も踏まえながら総合戦略を打ち立てていく必要があるかと思っておるわけでありまして。当面は経済対策であろうかというふうに思います。

○特別職報酬等審議会の答申について

（質問）報酬審議会が据え置きを答申しました。その受け止めをお願いします。

（議長）私、詳細はまだお聞きしてないんですが、一応ですね、従来どおりとするということは聞いておるわけでありまして。したがって、知事の方から結果についての報告があらうかと思っておりますので、それを見て判断せざるを得ないと思っております。議会としてはですね、私も報酬審議会に説明を依頼されましたので、議会としての活動等につきましても詳細に説明をさせていただき、それなりの理解は得たものと思っております。そんな中で最終的に判断をされたのでございますので、あとは知事からのご報告を待って判断をしていきたいと思っておるわけでございます。

—第二県政記者クラブも含めてお願いします。—

（質問）知事が報酬審議会の報告を受け取られましたけど、昨年12月、その報告というのは、議長の方にはまだないということですか。

（議長）まだございません。何もございません。

(質問) 何にもない。

(議長) はい。新聞報道がされました、それしか私は知りません。

(質問) でも月内にはありますよね。今月くらい。

(議長) だと思えますがね。何にもございません。

○園遊会への出席について

(質問) 皇居の年賀ですけど、園遊会には行かれたことあるんですよね。

(議長) 私はありません。

(質問) まだないですか。

(議長) ないです。

○地方創生について

(質問) 総理会見の中身ですけど、地方創生についての質問もありましたけれども、それについての総理の答えが、ある意味抽象的なものもありましたが、議長はどのようにお受け止めになりましたか。

(議長) 私、聞いておりました、要はとにかく都市部一極集中になってしまっておる、この今の日本の状況は、これはちょっと日本全体からすればですね、やっぱり地方が元気になってもらわないといけないということはもうこれは当たり前なんですよ。それで、やっとな安倍政権も地方創生、地方創生ということで、戦略会議とかいろんなもの作って立ち上がってきておるところでございますので、地方もそれなりに、国も頑張るから地方もこれからひとつ頑張ってくれやな困る、こういうのを言いたかったんだろうと私は思いますね。そのように受けとめておりました。しかし、地方もそれなりに身を引き締めて、緊張感を持って、この問題については知恵を出していかないといけない。地方は地方独自の特性、特徴があるだろうと思いますので、地方はそれなりの覚悟で臨んでいかなければならないなとつくづく私は聞いていまして思いました。国の創生の政策が出るからそれを待つてということではなくて、地方は地方の創生についてどう取り組んでいくかと、地方の活性化、元気のために。それが全国にですね、そういう精神が浸透していけば、私は非常に意義のあるものになってくる

んではなかろうかというふうに思っておるわけであります。

(質問) 言葉尻をとらえるわけじゃないですけど、国の案を待つてという話ならば、知事部局の案を待つてでなくて、県議会としてですね、地方創生総合戦略案のプランとしてこうあるべきだというふうな形で、議会として何かまとめられるようなつもりはないですか。改選を控えていますけど。

(議長) 今のところですね、まだそこら辺はどうやっていくか、我々としてもよく議論を戦わせながら臨みたいなというふうに思っております。

(質問) この類のでいくと、多分改選後に特別委員会なりができて、そこで知事部局とやり合いながらまとめていくというパターンだと思いますけど、そんなところですかね。

(議長) そうですね。なかなか議会でですね、そのことをまとめ上げるというのは、ちょっと今时期的にもね、そういう時期が時期だけに、私の口からこうだということは言い辛うございます。

○全国農業協同組合中央会について

(質問) さっきの賀詞交歓会ですけど、議長は農業問題にもお詳しいのでお聞きしますが、農協の賀詞交歓会で、JA全中の解体反対というのは、これは全国の農協そうじゃないですか。これについてはどういうふうにお考えですか。また、県議としてというか議会として、農協さんへの支持とか含めてですね、そこはちょっと自民党に物申したいとか何かそういうのありますか。

(議長) これは議長としての見解を今この時点でね、誠に申し訳ないんですが、こうだということは言いにくうございますわ。もう少し時間をいただきたいですね。

(質問) でも、議長はもう選挙出られないんですよ。

(議長) いやいや、それは、とにかくね、任期いっぱいはそのようなことはもう考えておりませんし、とにかく県政進展三昧ということで、体力の限界までと私は今思っております、なんとかこの任期だけはきちっと、引退がどうのこうのということは本当に毛頭考えておりませんので、全力で取り組んで。

(質問) あらためて任期終了時の会見の時にお聞きします。

○県議会議員選挙について

(質問) 7期されてて、当然県議選は7回戦われているわけですけど、今回の県議選をご覧になっていて、今の立候補者の出揃い状態とか含めて、私はだんだん活気というのか、活性化されてきていないなという感じがするんですけど、議長のご見解はどんなものですか。

(議長) 選挙区によってはね、非常にし烈を極めているところも実はございます。ですから、そこら辺はですね、選挙区の事情にもよりますのでね、なんと言いますか、非常にここにきて緊張感を持った選挙区もあります。したがって、これをどうしていくかということはみんなですね、この頃いろいろ私も賀詞交換会に臨んでいまして感じるんですが、かなり厳しい状況の中での、なんとか頑張っていこうという雰囲気を感じられます。厳しいと思います。

(質問) 四日市なんかも議長のお考えの中では厳しい選挙区だとお考えですか。

(議長) 最も厳しい選挙区だと私は踏んでおります。横一線みたいな感じですよ。

(質問) ちなみに、平成31年、次の次の県議選から定数と選挙区の見直しという形になっていきますけど、今回もし前倒ししてやっていたら、もっと活性化はあったという感じですか。

(議長) 副議長どうですか。

(副議長) 今、じり貧みたいにおっしゃられたけれども、だけど一概にそうでもないかなと、やってみないとわからない、どういう人が出てくるかもわからない。選挙自体は確かに南の方はちょっと活性化してないような、それは4年後に定員減というのがあるので、そういうのをにらんでいるというか、そういう部分があるけれども、四日市とかの方も新しい若い方も出てくるので、いろんな面で、年をとっているのだから、若いからいいというんじゃないで、いろんな人が、年代もいろんな年代が入ってきて、その中で資質を向上してもらえば議会も活性化するんじゃないかなと思います。南の方はそういう選挙が沈滞ムードなもので全体的にそう感じるかもわからんけど、4月になって新しい方が来れば、それなりに活性化されるんじゃないかなと思います。

(質問) だけど、全体に無投票の地区が多いので、逆に言ったら活性化していないんじゃないかという感じがするんですけど、議員からいったらこれは無投

票がいいに決まっていますよね。

(副議長) そうでもないですけど。

(質問) いえいえ、大多数の大意としてはね。だけど、有権者からいうと選択肢が多い方がいいわけで、本来無投票地区が少ない方がいいじゃないですか。その辺のことが今回の場合は積み残しのまままきっているんじゃないかと思ったんですけど。

(副議長) 選挙に腰引けるというとおかしいんですけど、やっぱり選挙に出るというのは、非常に金銭的な部分もあるし、現在されている仕事を辞めなきゃいかんというのものもあるし、いろんな意味でだんだん出にくくなってきているというのが一つ感じられる、活性化しないというのはあるんじゃないかなというふうに思います。本当に生活がありますから、政治を目指す人もやはり生活を考えると、なかなか選挙に打って出るというのが一時代前に比べると少なくなっているんじゃないかなというのは、私も20年政治やっていてそんなふうに感じます。だから、活性化しないというふうにとれるのもありかなという気がします。

(質問) 附帯条件、要は31年から定数と選挙区を見直すというふうな、あの附帯条件つきのものというのは、今後も死守されるんですよね。現職の議員の方はそうかもしれないけど、新人が入るとわからない部分があるじゃないですか。

(副議長) 基本的にはね、もう議決しているわけですから、大きな何かがない限りは、4年後は今の議決された部分でいかなきゃならんと思います。

(質問) 大きな何かというのはなんですか。

(副議長) それはわからん。それはわからないけど、何かがあったときには考えなきゃいかんかわからんけど、今の状態が続けば、当然議決したままでいくのが、それを変えてしまったら昨年、一昨年、議論していた人がなんなんやということになるんじゃないかなと思います。

(以 上) 10時59分 終了